

WFP

2024

国連世界食糧計画 Annual Review

WFP

2024

Annual Review

WFP 国連世界食糧計画 日本事務所

<https://ja.wfp.org>



世界を覆う様々な危機を解決するために
確かな成果の残る支援を

2024年、世界はかつてない試練に直面しました。紛争の長期化、頻発する自然災害、経済の混乱——そうした要因が重なり、飢餓に苦しむ人々の数が急増。

こうした中、WFPは1億2,400万人もの人々に支援を届けました。最前線に立ち、命の危険を伴う困難な状況の中で懸命に尽力しています。

この活動は、皆さまからの温かな支援なしには成し得ませんでした。私たちは98億米ドルにのぼる支援を受け、危機的状況への対応とともに、最も弱い立場にある人々が未来を築く力＝レジリエンスを育む支援を進めました。また、限られた資源を最大限に生かすべく、効率化と改革にも取り組んでいます。

技術やイノベーション、そして民間との連携を通じて、歩みを進めていきます。支援者の皆さまの信頼と連帯に支えられながら、WFPはこれからも、すべての人びとに寄り添い続けます。

Saving Lives Changing Lives

数字で振り返る2024年のWFP

2024年に
食料支援を受けた人の数

1.24 億人

このうちの緊急食料支援を
受けた人の数

9,000 万人

161 億食分

配った食料の数

栄養改善プログラムを
受けた人の数

2,760 万人

250 万トン

配布した食料の総量

世界中から集まった
WFPへの支援金

98 億米ドル



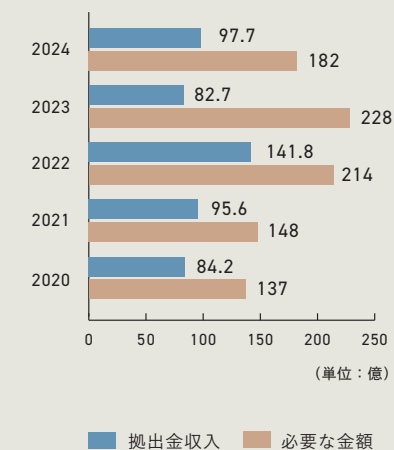
98 億米ドル

政府、国際金融機関、
民間企業など115の
資金源から調達

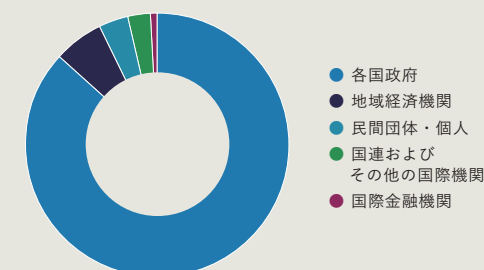
資金調達

WFPは2024年に、各国政府、国際金融機関、民間団体・個人、国連基金など115の資金源から98億米ドルを調達しました。多くのパートナーの協力により過去2番目に高い資金水準を達成することができましたが、増加するニーズ（182億米ドル）の54%にとどまっています。資金不足により、いくつかの現場では食料配布の中断や縮小が避けられず、支援の継続性も脅かされています。届かなかった支援の先には、飢えに苦しむ人がたくさんいます。私たちが飢餓のない世界を実現するためには、一人ひとりのさらなる意識の高まりが欠かせません。すべての命に手を差し伸べるために、まだより多くの力を必要としています。私たちWFPも、その使命を達成するためにできる限りの資金調達を目指し、あらゆるアプローチを続けていきます。

寄付額（前年比）（米ドル）



収入源別収入（米ドル）



日本政府からの拠出金

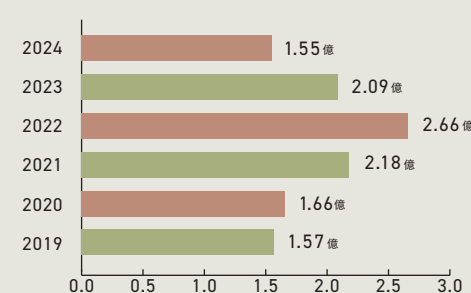


2024年、WFPが世界中から受け取った寄付総額は98億米ドル。このうち1.5億米ドルを拠出したのが日本政府です。日本は、WFPを長年支える重要なパートナーのひとつとして世界への貢献を続けてきました。紛争や人道危機が深刻化するアフリカや中東への支援をする中、2024年は特にパレスチナへの拠出が大幅に増加しています。また、地理的・歴史的にゆかりのあるアジア地域へも日本がこれまで培ってきた学校給食制度の知見や官民連携を生かした独自の支援活動を積極的に展開しています。

日本政府からの
拠出金

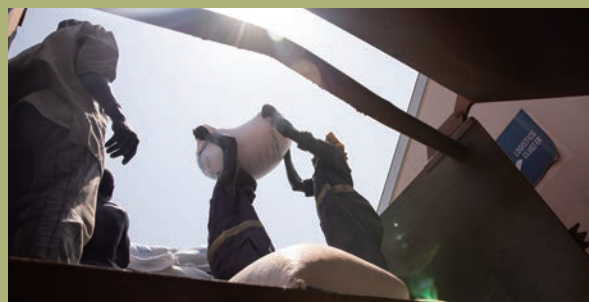
1.5 億
米ドル

日本政府から WFP への拠出金推移



飢餓から救う。

空腹は、全ての可能性を奪います。砲弾が飛び交う紛争地で、赤ん坊を抱える母親が配給の列に並んでいます。洪水に飲み込まれた村の避難所で、被災者たちは小さな袋に入ったビスケットを分け合います。WFPの活動は、そうした極限の状況に置かれた人々の「今日」を守ることから始まります。緊急食料支援、栄養不良の予防や治療、現金バウチャーの配布、移動式キッチンや炊き出し——その全てが、飢えて命を落とさせないための、最前線の取り組みです。2024年、WFPは世界中で1億2,400万人を超える人々に食料支援を行い、そのうちの9,000万人は、緊急の支援を必要としていました。食べること。それは、人間が生きるうえで最も基本的な権利であり、それが満たされることではじめて、明日を考える心の余裕が生まれるのです。



スーダン

2023年から続く大規模な武力衝突により、2024年に飢きんが確認されました。スーダン全土では人口の半分以上にあたる約2,460万人が深刻な食料不安に直面しており、そのうち63万8,000人が壊滅的な飢餓状態にあるとされています。人道支援のアクセスも厳しく制限されており、



避難民の数は増え続けています。即時の人道支援と緊急の国際的な支援がない限り、飢きんはさらに拡大し、数百万人の人びとの命が危険にさらされる可能性があります。WFPはこの困難な状況の中、最も飢えた人と最もアクセスが難しい地域に食料支援を届けるために全力を尽くしています。

緊急食料支援

WFPは、紛争や自然災害などで飢餓に直面する人々へ迅速に緊急食料支援を届けています。世界各地の拠点と輸送ネットワークを通じ、食料だけでなく現金給付やデジタルバウチャーなど状況に応じた最適なかたちで、もっとも必要とされる地域に支援を届けています。

200万トン

WFPが緊急支援のために
調達した食料



パレスチナ

80万人以上

スーダンで
食料を届けた人の数

210万人

パレスチナで
支援した人の数

パレスチナでは、特にガザ地区における情勢の悪化が、人々の生活と食料供給を根本から脅かしました。安全な移動もままならず、市場も機能しない中で、WFPの支援は命をつなぐ唯一の手段です。WFPはパレスチナ全土で、絶え間なく続く紛争とアクセス制限のために、活動がほとんど不可能になった時期があったにもかかわらず、支援を提供し続けました。資金が大幅に削減されたものの、ガザの190万人を含む210万人に支援を届けました。



気候変動対策

WFPでは気候変動の影響で年々激しさを増す自然災害に対し、事前に情報周知を行ったり、万が一、災害が発生してしまった場合に迅速に支援するシステムをサポートしています。このうち災害リスク・ファイナンスは、支援にかかる人的負担や費用を軽減する仕組みで、2024年にはこのシステムでサイクロンや洪水、干ばつなど12件の異常気象に先立ち、13カ国で860万人以上に早期警戒情報を発信し、130万人以上に現金支援を行うことができました。特にエルニーニョの影響で干ばつに見舞われたアフリカ南部では、57万7,000人に暮らしを再建するための610万米ドルを支援。マダガスカルでは、アクセスが困難だった地域の7万2,000人に対して迅速な支援が提供できました。こうした先を見据えた備えが、災害から命を守る確かな力となっています。



ロジスティクス

紛争地や災害地などではライフラインが途絶えがちです。WFPではアクセス困難な地域にも食料を届けるロジスティクスの構築も担っています。2024年には250万トン以上の食料を各地に配送。他機関と連携し、医薬品や人道支援のためのスタッフの輸送も行っています。干ばつの被害を受けたマダガスカルでは孤立地域への支援に無人航空機を活用しました。



世界各国の小さな営みを守る挑戦

気候変動の影響は、地域によって姿を変えます。WFPはその土地ごとの脆弱さに応じて、人々の生活を守る支援を行っています。干ばつに苦しむアフリカの農村には、農業保険や現金給付、労働を対価とする食料支援を組み合わせ、再び自分たちの畑で収穫を得られるような支援に取り組んでいます。バングラデシュの沿岸部では、高潮や塩害に耐えるための農法の導入や、水源の保全を進め自然に適應しながら食の基盤を守る力を育てています。

63カ国

災害に強い社会保障制度の
強化をサポートした国の数

8億7,400万人

制度によって
手厚い支援を受けた
24カ国の人の数



特にWFPが運営する国連人道支援航空サービス (UNHAS) は安全な陸上輸送や民間航空の輸送など、他の選択肢がない不安定な治安状況下で、遠く困難な場所へのアクセスを可能にしています。2024年は28カ国、約3,000回にもおよぶフライトを通じて支援物資や医療品、人道支援スタッフを輸送。人々の命と希望をつなぐために空から道を切り拓いています。

45万トン

WFPが他機関と連携して
運んだ物資の総量

6万5,000トン

高リスク地域に運んだ物資の総量



未来を救う。



学校給食

学校給食は、食料不安の根本解決に取り組むWFPの最も重要なプロジェクトの一つです。子どもたちに差し迫った飢餓と栄養ニーズの両方に対処しながら、各国が貧困から抜け出す将来の可能性を高めるものです。2024年、WFPは61カ国で2,000万人以上の子どもたちに、学校給食を届けました。給食を通じて子どもたちが栄養バランスの摂れた食事をすることで、空腹による学習機会の損失を防ぐと同時に、学校の出席率や在籍率を引き上げています。食材は小規模農家から調達し、女性を積極的に雇用することで、地域経済の活性化にも好循環をもたらしています。取り組みは確実に定着しており、たとえばケニアでは国家のプログラムとして事業を拡大しています。またベナンはプログラムの政府移行を完了しています。

61カ国
2,000万人

WFPが学校給食を届けた
国と子どもの数

78カ国
1億1,900万人

WFPの技術支援を受けた各国政府や
パートナーを通じて、学校給食を
提供できた国と子どもの数

WFPは2021年に発足した学校給食の活性化や食料と教育のシステム強化を目的とした「学校給食コアリション」で事務局を務めており、各国政府からの国内投資の拡大を継続的に推進しています。学校給食プログラムに関する世界的な提唱活動が強化し、2024年末までに106の政府、6団体の地域機関、そして138団体のパートナーを擁する規模にまでなりました。2024年のG20では、低所得国および低中所得国における学校給食を受けている子どもの数を倍増させることを誓約し、2030年までにさらに1億5,000万人の子どもたちに給食を届けることを目指しています。WFPの学校給食支援を受けている国のうち34カ国は、政治的に危機的



状況下にあるか、または人道支援を受けている国です。例えばウクライナではWFPが政府を支援し、非常に脆弱な地域の子どもたちに支援を届けました。2024年にWFPからの技術支援を受けた各国政府またはパートナーを通じて、78カ国、1億1,900万人の子どもたちが学校給食を食べることができました。



飢餓は突発的な危機だけでなく、構造的な貧困や不平等、気候変動によっても引き起こされます。だからこそWFPは人々が自らの力で飢えを遠ざけられるように、持続可能な未来を育てる支援にも力を注いでいます。たとえば、食料の自給率を高めるための農業技術支援や自然災害から土地を守るための支援。学校では、給食をきっかけに子どもたちが通学を続け、教育を受けられる環境を整備。特に女子児童にとっては、栄養と同時に「学ぶ権利」も守られる大切な支援です。2024年には、WFPの栄養改善プログラムによって、2,760万人が健康的な発育と生活の基盤を得ました。未来を変える支援とは、誰かに依存させることなく、「自分たちで未来をつくる力」を取り戻してもらうこと。WFPは今日も世界の各地で、支援のいらない社会を目指して歩みを進めています。



20カ国
2,140万人

WFPが栄養改善のサポートをした
女性と子どもの数



栄養改善

栄養不良は、子どもと母親の命を奪いかねない静かなる危機です。WFPでは2024年に20カ国2,140万人の女性と子どもに、命を救うための栄養不良の予防と治療を提供しました。しかし、まだまだ栄養改善のための需要との間には大きなギャップが残っています。WFPではこうした緊急支援の他にも食料配給や学校給食、社会的

な保護プログラムを活用して食生活を改善して栄養失調に対応するための戦略を策定。単に喫緊の栄養状態を改善するだけでなく、家庭やコミュニティの習慣づくりを通して、命を守る力を育てています。WFPでは「治療」から「予防」へと支援を広げ、未来への投資としての栄養改善に取り組んでいます。

世界で活動するWFP日本人職員

近藤 篤史

From Myanmar

ミャンマー事務所 ラカイン地域事務所長



ラカイン州は、ミャンマー西部のベンガル湾沿岸に位置し、長年にわたって支援が必要とされてきた貧しい地域です。私がここに来た当初は、自立を視野に入れた次のステージへ進むための出口戦略を描いていました。しかし、政情が急速に悪化し、積み上げてきたものが一瞬で崩れてしまいました。今では町に電気もインターネットもなく、夕方になると一面が真っ暗になります。

空調も使えず、ただ暑さに耐える毎日です。遠くから銃声が聞こえることも、もう日常になってしまいました。治安の悪化で、これまでのように車両で食料を届ける

ことができなくなり、今は現地のNGOと連携して現金を支給しています。対象は政変前と同じ35万人。人々はその現金で食料を購入し、限られた行動範囲のなかで暮らしています。「本当にこれでいいのか」と迷うこともありませんが、他の支援団体が必死に活動している姿を見ると、私自身も前を向こうという気持ちになります。政情不安が続くなかでも自分の土地にとどまり、日々を懸命に生きる人々がいます。彼らこそがいつか治安が回復したときに地域を立て直すリード役です。こうした人々の存在がいる限り私たちの支援には意義があるし、私たちが希望を捨てない限り、未来に明るい光が差すことが信じられます。

